

トラブル解決法～豊かな人間関係を築くために～（対立の解決法）

学習プログラム案作成までのプロセス

きっかけは

教師のねがい



子どもたちは、多くの人間関係の中で生活している。時には、意見が合わなかったり、悪口を言ったりと、ささいなことでもけんかになる場面も見られる。

人間関係が希薄になり、互いの関係をどう作っていけばよいのか分からなくなっている今日、対立の場面にどう対処していくか、その解決方法を身につけることの必要性は高い。互いの違いを認め合いそこから学び合うことで、さらに人間関係を深め、現状を変えていくことができることに気づかせたい。

さらに、身近な対立と同じようなことが、国や世界でも起こっていることにも気づかせたい。

会員の一人が「世界青年の船」という事業に参加しており、本人が集合時間に遅刻したことから、16カ国252人を乗せた船の中は、遅刻者への処遇をめぐって意見が真っ二つに分かれるという大事件に発展してしまった。

決まりをどう捉えるのか、リーダーの役割とは、自己主張の仕方について等々、いろいろな視点で解決策を考え抜いた経験は強烈で、何年たっても体験者の頭からはなれない。

機会があればこのような体験を多くの人たちに伝え、国際交流とは何かを考えるきっかけになればと願っていた。

NGOのおもい



こんなふうにつくりました

1 チームミーティング(9月8日)「素材・ねらいの決定」

- 素材：「世界青年の船」の航海中に実際に起こった遅刻者の処罰問題に関する大論争（P.11参照）
- ねらい：対立の解決法

2 第1回全体共有会(9月24日)「手法の決定・ねらいの確認」

手法

- 状況の説明を写真やイラストを使って紙芝居風にする。
- 意見が対立した場面では、ペープサートを使い、登場人物とその主張をわかりやすく伝える。
- 国への偏見を避けるため、登場人物は名前だけで国籍なし。
- グループごとの話し合いの方法は、登場人物を選択してのロールプレイにしても、参加者自身の考えで解決策を求めた話し合いにしてもよい。
- ディベートをしてはどうかという案も出たが、勝ち負けをつけるものではないので、なじまないと考えた。

ねらい

- 解決策を考えるとき、何をいちばん大切にしなければならないかを考えさせたい。
（相手の気持ちを考えた上で両方にとってよりよい解決策を考える（ウィンウィン解決法）という気づきを入れたい。）

3 チームミーティング(10月8日)「紙芝居の台本・写真の検討」

- 実際の論争は各自がそれぞれの立場で意見を主張し、多くの意見が出て複雑であったが、より単純に2つの意見の対立で台本を作る。(P.10参照)

ペープサートとは

本来は人形劇で用いられる紙人形であるが、イラストのような登場人物を表す棒付きのカード



話の合間に、ワークショップや「国際理解って何？」などに「国際理解ができて、チームでの作業のありがたさを感じる。」



4 チームミーティング(10月13日)「紙芝居作り作業」

5 チームミーティング(10月28日)「紙芝居の台本の検討」

6 第2回全体共有会(11月4日)「紙芝居発表」

課題

- ・紙芝居の写真は情報量が多く余計な情報も入ってしまう。
- ・イラストで表現した方がわかりやすいが、イラストをどうするか。
- ・内容を単純化しすぎて、淡々とストーリーが進み、大騒動が伝わらないので、台本を再検討する。

7 授業実践(11月21日) 対象:福島市立清明小学校4年生

成果

- ・ペープサートを使用し、役割を分担して進めたことと、それぞれの主張を黒板に整理したことで、理解が深まり、解決への意欲が高まった。

課題

- ・対立した場面のロールプレイをせず、すぐ解決法の話し合いに入った方が意欲を持続させることができた。
- ・子どもたちの視線が一定するよう、紙芝居や航海スケジュールの見せ方を工夫する。

8 チームミーティング(11月23日)「授業実践のふり返し」

9 チームミーティング(12月13日)「ねらいの再確認」

- ・「船の中の大事件」を模擬体験することを通して、価値観の多様性に気づき、対立の解決方法を考えることができる。

10 ふくしまグローバルセミナー2007での実践(12月15日)
対象:高校生以上

11 チームミーティング(12月20日)
「ふくしまグローバルセミナー2007での実践のふり返し」

成果

- ・事件の解決法のまとめとしてロールプレイを入れるつもりだったが、話し合いが盛り上がっていたので、カットした。どのグループも最後は合意ができたようだ。

課題

- ・自分の意見をなかなか言いにくい人もいるので、ロールプレイを取り入れた方が、自由に意見が言えたかもしれない。

12 第3回全体共有会(1月5日)「紙芝居の内容の再検討」

課題

- ・遅刻者だけの問題だと思っていたことが、当事者の意思とはかけ離れ、船全体の問題にまで発展してしまったことの驚きを紙芝居の台本に追加する。
- ・欄外情報として、船での特殊事情やリーダー論にまで発展した論点のことも書き加える。



清明小学校での授業実践

子どもたちはこの授業の前に「対立の解決法」について学習していたので、今回の事件についてどう解決するかの話し合いの中でウィンウィンやウィンロスを口にしながらか解決策を探していたことはすばらしかった。



ふくしまグローバルセミナー2007での実践

解決の話し合い中、「3日のうちあと1日しかないよ」の進行者の声かけは緊迫感があつてとても良かった。

進行者が最小限の発問で話し合いをスムーズに進行できたのが良かった。

全体をふり返って

成果

- 「船の中の大事件」という一つの素材で、小学生から一般まで、幅広い年齢層で実施できる。
- 実際に起こった出来事を教材化したものなので、リアリティがあり、本物のよさがある。NGO「船と翼の会ふくしま」が外部講師として参加できるとよいが、担任だけでも実施可能である。
- この教材の一番のポイントは、いかに大事件だったか、限られた時間と空間の中で何とか解決しなければならないという必要感を持たせるかである。そのために、紙芝居のストーリーの内容や写真、イラストを吟味しペーパーサートを取り入れた。また、指導者の声のかけ方次第で解決しなければならないという緊迫感を表すこともできる。
- 話し合いを通して、4～5人のグループでさえ合意を形成することはむずかしいこと、さらに人数が多ければ多いほどどんなに合意形成が大変かということに気づくことができる。

課題

- グループの話し合い活動が中心となるので、一人一人が意見を言いやすいようなグループ構成にしておくとうい。また、ロールプレイを取り入れ、その役になりきって話し合いを進める方法もある。対象者の年齢や実態に応じて工夫できる。



学習プログラム案完成!

トラブル解決法～豊かな人間関係を築くために～



対象 小学校中学年～一般

時間数 4時間

ねらい

【関心・意欲・態度】

- ・自分の身の周りの様々な場面で起こっている対立を建設的に解決しようとしながら、進んで話し合い活動に参加することができる。

【技能・表現】

- ・様々な対立の取り扱いの中から、その場の状況に応じた効果的な解決方法を見つけることができる。
- ・友だちの意見や考えを自分の考えと比較して聞き、互いのよさを認めると同時に、自分の考えを分かりやすく伝えることができる。

【知識・理解】

- ・様々な対立の原因とよりよい解決方法を知る。

全体の流れ

Step1

(1時限)

題名 「どうして起こる？」
 主な内容 自分の身の回りにおける対立の事例を出し合い、その原因について話し合う。

Step2

(2時限)

題名 「そんなとき どうする？」
 主な内容 対立は悪いことではなく、よりよく解決していく事が大切であることに気づき、その解決方法を考える。

Step3

(3時限)

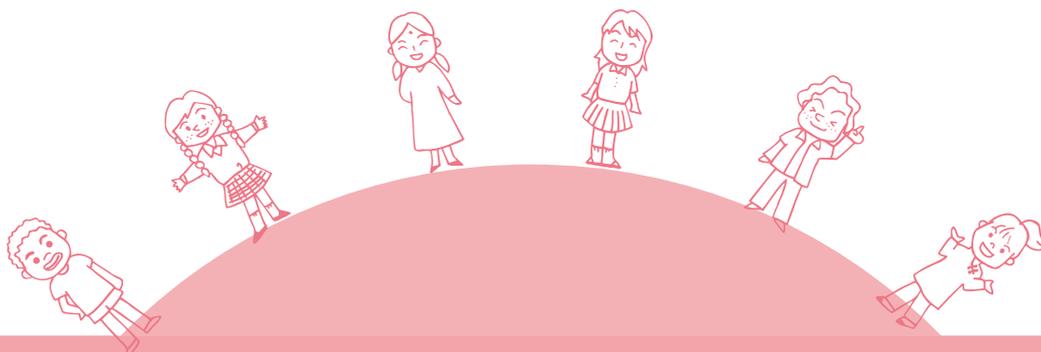
題名 「船の中の大事件」
 主な内容 NGO「船と翼の会ふくしま」の方の体験談を聞き、事件の解決方法を考える。

Step4

(4時限)

題名 「自分の思いを伝えよう」
 主な内容 最近身の回りで起こった対立についてふり返り、当事者に今の自分の思いを伝える。

P.9にあります



題名 船の中の大事件 (45分)
ねらい 「船の中の大事件」を模擬体験することを通して、価値観の多様性に気づき、対立の解決方法を考えることができる。

 準備物 世界地図、紙芝居(P.10に台本掲載)、ペープサート、16カ国の国旗、ふりかえりシート

内容	時間(分)	進行上のポイント
1 学習の概要をつかむ。	5	○テーマ「船の中の大事件」を板書し、この大事件の体験者である「船と翼の会ふくしま」の●●さんを紹介する。
2 「船の中の大事件」について知る。 (1) 「船の中の大事件」を紙芝居で聞く。 (2) 話の概要を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">あなたなら、どう解決しますか？</div>	10	○●●さんが自作の紙芝居を朗読する。対立の場面は、担任と役割分担をしてペープサートを使ったロールプレイを行い、事件の大変さが伝わるようにする。 ○「船の中の大事件」の対立の場面を整理し、板書する。 ・登場人物 ・それぞれの主張
3 大事件を解決する。 (1) グループを作る。 (4人×□グループ) (2) グループでの話し合い <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">A 事故のせいなのだから、責任はない。自由時間はあり。 B ちこくはちこく。決まりは守るべき。</div>	15	○まず一人一人の考えを挙手で確認し、グループ内の構成を把握しておく。 ○グループは事前に作っておく。 ○グループの中で話し合いを進めたりまとめたりする進行係、ワークシートに記録する係、発表する係を決めさせ、話し合いがスムーズに進むようにする。
(3) 話し合いの結果を発表する。 (4) 質疑応答 (5) 紙芝居の続きを聞き、大事件の結末を知る。	10	○結果の理由も明確にして発表させる。話し合いの結果が1つにまとまらない場合もよしとし、まとまらない理由を発表させる。 ○自分やグループの考えと比べて、他のグループの考えに質問をし合う。 ○●●さんが紙芝居の続きを話す。 ○当たりはずれに一喜一憂するのではなく、人の価値観は多様であり、だからこそ対立も起こり、その解決方法を話し合いながら考えることに意義があることに気づかせる。
4 学習をふり返り、まとめを行う。 ○感じたことや発見したこと ○友だちの意見を聞いてなるほどと思ったこと	5	○ふりかえりシートを活用する。何人かの感想を紹介し、共有化を図る。

「船の中の大事件」紙芝居台本

内閣府という国の機関が、私たち日本と世界中の国の人が仲良くなるために、いろいろな国際交流事業を行っています。これから紹介するのは、船で2ヶ月間一緒に生活をして、交流を深める「世界青年の船」というプログラムです。

ずっと船の中に乗ったまま海を移動しているの、陸に降りるのがとても楽しみです。また船の中では規則正しい団体生活なので、陸での自由時間は一人で行動できる貴重な時間です。

船の中ではみんな英語を話します。船には9名の先生がいて、世界のことについていろいろな勉強をします。また、民族衣装を着て踊ったり歌ったり、それぞれの国の文化を紹介しあいます。他の国の文化を知ることに相手との距離が縮まり、理解が深まります。

(世界地図、写真を見せる)

にっぽん丸は16カ国252人の青年を乗せて日本を出発しました。途中ロシア、ハワイ、タヒチ、トンガ、ニューージーランドにより、シンガポールまでの船旅です。

実はこのプログラムの移動中に船の中で大事件が起こってしまいました。その話を聞いてください。

場面	シナリオ
1. ハワイ到着	船はハワイに到着しました。ハワイでは自由時間があるのでも楽しみですが、集合時間に遅れた人は次の自由時間がなくなってしまうという決まりがあるので、時間を守らなければいけません。気をつけなくちゃ。
2. ワイキキ	そして、待ちに待った自由時間。晴れていてビーチにも人がたくさんいます。食事をしてビーチで遊んで満足。そろそろ帰ろうか。
3. バスの中	バス停で待つこと30分。やっとバスが来ました。バスには仲間も乗っていて話が弾みます。 「何していたの？ワイキキビーチはとっても良かったよ。」 「次のタヒチでの自由時間は何をやる？やっぱり泳ぎたいよね。」
4. 渋滞	しかし、道路が混んでいてなかなかバスが進みません。事故があったって渋滞していいのです。集合時間が気になります。
5. 時計台	やっとバス停に到着。バスを飛び出し船に向かって走ります。そのとき「ゴーン」鐘の音が鳴り響きました。
6. 走る	「ぎゃあ〜集合時間だ。」ものすごい叫び声をあげながら私たちは走りました。
7. 船の前	船に到着。でも船の扉は閉じていました。 「あ〜5分遅刻だ。間に合わなかった。」 船の中に戻るとグループリーダーが入り口で心配して待っていました。 リーダー「いつも時間に正確なのに今日に限ってどうしたんだ？」 ゆうこ「道路が混んでいてバスが動かなかったの。」 リーダー「帰ってこないから心配していたんだ。」 ゆうこ「心配かけてごめんなさい……。」

場面

8. ミーティング

(パーサートを使用する)

疲れたので部屋で休んでいると同じグループの仲間が部屋に入ってきました。

タテ「ゆうこ、ハワイで遅刻したって本当？」

ゆうこ「本当なの。事故があったって道路が混んでいてバスが遅れたの。」

タテ「じゃあ遅刻は事故のせいで、ゆうこのせいじゃないのだから、リーダーに事情を説明しなさいよ。」

ゆうこ「心配かけてごめんなさい。遅刻しないように2時間前にワイキキを出したのに、道路が混んでいて、時間に間に合わなかったの。」

リーダー「事故で道路が混んでいて、みんな時間ぎりぎりだったんだよ。リーダー会議ではその辺のことも話し合ったけれど、やはり決まりは決まりというところで話は進んでいるんだ。」

ゆうこ「タヒチは2ヶ月間の中で特別に長い自由時間で一番楽しんだのに、なあ。2ヶ月間で1日休めるのはこの日だけなのに。あ〜タヒチに降りられない。周りは海で逃げられないし、家にも帰れない……。たった1日のチャンスなのに……。でも遅刻したのだから仕方ないか。あ〜あ残念。」

タテ「事故のせいで遅刻したのだから、遅刻した人の責任じゃないわ。自由時間なしはひどすぎる。タヒチに降りられないなんてかわいそう。」

クリス「私は前回遅刻して自由時間なしになったの。次の自由時間なしは当然よ。決まりは守らなければならぬでしょう。」

タテ「クリス、あなたは遊びすぎで遅刻したんでしょ。それで、2時間の自由時間なしだったのよ。ゆうこは事故のせいで遅れて1日自由時間なしになってしまうのよ。あまりにも不公平じゃない。自分が悪いなら仕方ないけど、事故じゃねえ。その辺の事情も考えるべきよ。」

クリス「自由時間なしは最初からの決まりなのに、遅刻してからあれこれいうのはおかしいじゃない。」

タテ「まだ決まったわけじゃないわよ。」

ゆうこ「私一人が我慢すればいいのよ。これは私の問題なんだから。もうほっといて！」

しかし、ハワイでの遅刻者問題は、遅刻した私の意思とは関係なく、船全体の問題へと発展していきましました。

ハワイ出航からタヒチ到着まで、252人が乗った船の中は大論争の場となり、3日間徹底的に話し合いが続きましました。

<紙芝居中断>

9. タヒチ

何度もリーダー会議が開催され、「タヒチは長い自由時間があるし、タヒチに降りることができなくなるため、タヒチはみんなと一緒に自由時間をすごし、その次のトンガでの自由時間をなしにする」という結論になりました。私は無事にタヒチに降り、タヒチの海で泳ぐことができてましました。

おしまい。

船の中の大事件 欄外情報

- ①「世界青年の船事業」には、東回り（環太平洋を回る）コースと西回り（インド洋を経てアフリカに行く）コースがあり、交互に実施されている。コース、年によって参加する青年の国籍は違う。しかし、帰船時刻に遅れたメンバーにどのようなペナルティを課すか、毎年問題となる。今回のように自由時間カットを罰とした場合もあるが、罰金制にした場合もあった。いずれの場合にせよ、文化や通貨の価値の違いで、全員が合意できる解決策は未だに出ていない。
- ②なぜ、遅刻者がこれほど問題となるかという点、数名あるいはたった一人の遅刻者のために、船が出航できないと、1時間につき莫大な船の停泊料が発生するからである。
- ③長い航海中に陸に降りるといことは、精神衛生上ひじょうに重要なことであり、他の寄港地では、自由時間カットでも船外活動として陸に降りる機会があるが、タヒチの場合は自由時間のみのプログラムであったので、自由時間カットになると陸に降りる機会が失われる。これが、タヒチの1日自由時間カットが問題となったもう一つの理由である。
- ④今回のシナリオでは触れなかったが、議論の争点の一つにリーダーのあり方を問う意見も出た。リー

ダーは各国・各グループをまとめていかなければならない。その中でリーダーとして規則に対して各人の事情を考慮すべきかどうか。また、交通事故というアクシデントがあったにもかかわらず、タヒチでの自由時間カットというリーダー会議の決定に対し、一部の参加者からグループの構成員の意思よりも、規則遵守するリーダーは果たしてリーダーとして適格なのかという意見も出た。

- ⑤今回の船でのペナルティは、船が出航する前に各グループのリーダーによるリーダー会議で決定されたものである。船において、リーダー会議は議決機関として公式なものである。
- ⑥今回の遅刻者問題は、一般参加者だけではなくリーダーの間でも意見が分かれ決定までに多くの議論がなされた。最終的には、リーダー会議で決定された。

紙芝居・ペーパーサート等の教材の利用に関しては、下記の「船と翼の会ふくしま」事務局まで、お問い合わせください。



船と翼の会ふくしま

内閣府（総理府・総務庁）の青年国際交流事業（航空機による海外派遣事業・世界青年の船・東南アジア青年の船など）の参加者を中心とした社会貢献を目指す事後活動組織。主に内閣府の青年国際交流事業で来日する外国青年の受け入れ、地元青年との交流会など、地域社会における国際交流の活性化、次世代を担う青少年の育成のための事業を行っている。

◆連絡先 TEL：024-549-5662（事務局 日下部）
E-Mail：funetotubasa@hotmail.co.jp



ホームステイおもしろ体験！～模擬体験から見える異文化～（多様性と共通性）

学習プログラム案作成までのプロセス

きっかけは

教師のねがい



小学校では国際理解教育は、英語活動の比重が大変高くなっている。教材として扱う事象も、英語そのもの（会話・歌・ゲーム）や、英語圏の文化紹介にとどまってしまうことが多い。また一方で、主に中国やフィリピン、韓国出身の住民も地域におり、級友の中に外国出身者が在籍することも少なくない。また、児童は、身近な地域での国際交流活動が盛んに行われていることを知らず、市民レベルでの国際交流に接する機会が大変少ない。

そこで、民間レベルでの多様な国際交流活動について知らせ、多様な国、多様な人、多様な文化について気づかせるような授業を構成し、多面的なものの見方を育てていきたいと考えた。

私たち船と翼の会ふくしまは、「地域における国際化」を目指し、さまざまな活動をしている。その中で、ホームステイのコーディネートをする機会もある。最初の対面式では緊張していた外国青年やホストファミリーが、ホームステイ後には感動の涙での別れになり、ホームステイは日本にしながらにしてできる国際交流のひとつであることを実感させられてきた。

しかし、ホームステイは特別な人のものであるというイメージがあり、なかなか受け入れに踏み切れないものようだ。異文化体験のおどろきや面白さを知ってもらい、ホームステイをより身近に感じてもらいたい。

NGOのおもしろ

